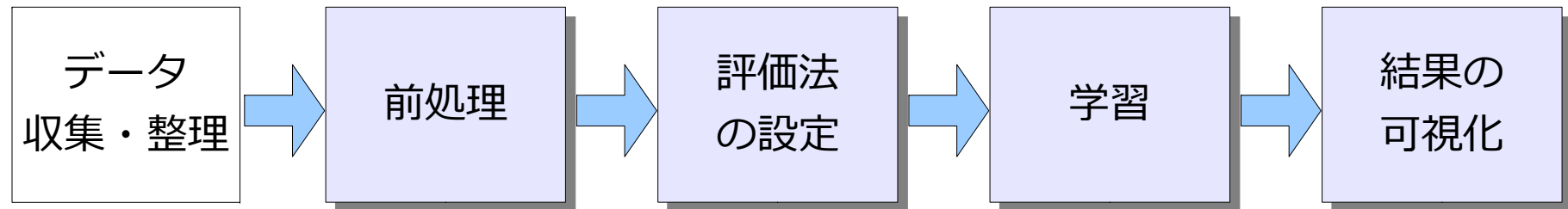



2. 機械学習の基本的な手順



 : ツールによる支援が可能

2.1 Weka を用いた機械学習

- Weka とは
 - Waikato Environment for Knowledge Analysis
 - 機械学習のアルゴリズムを実装した Java ライブラリ
 - データファイルを直接操作できる GUI を持つ
 - ライセンスは GNU GPL
 - プログラムの実行・改変・再配布が自由
 - ただし二次的著作物に対しても GNU GPL が適用される

2.1.1 データ収集・整理

- Weka のデータ形式 ARFF フォーマット

```
% 1. Title: Iris Plants Database
@RELATION iris

@ATTRIBUTE sepallength    REAL
@ATTRIBUTE sepalwidth     REAL
@ATTRIBUTE petallength    REAL
@ATTRIBUTE petalwidth     REAL
@ATTRIBUTE class {Iris-setosa,Iris-versicolor,Iris-virginica}

@DATA
5.1, 3.5, 1.4, 0.2, Iris-setosa
4.9, 3.0, 1.4, 0.2, Iris-setosa
...
7.0, 3.2, 4.7, 1.4, Iris-versicolor
6.4, 3.2, 4.5, 1.5, Iris-versicolor
...
6.3, 3.3, 6.0, 2.5, Iris-virginica
5.8, 2.7, 5.1, 1.9, Iris-virginica
...
```

データセット名

特徴名と型

萼・花びらの
長さ・幅

アヤメの
種類

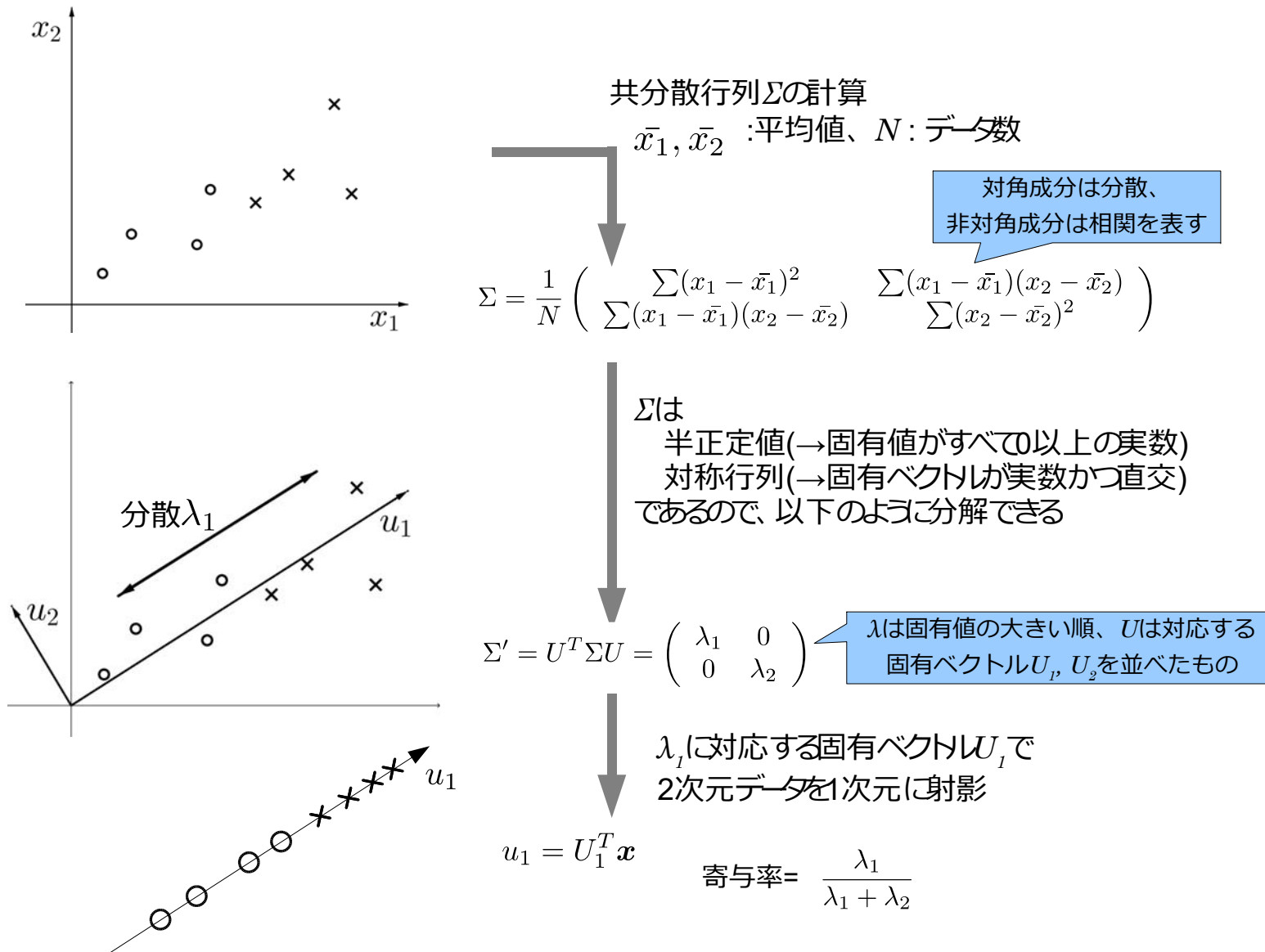
これ以降、1行に1事例
(ExcelのCSV形式と同じ)

2.1.2 前処理

- 分析
 - 主成分分析（次元削減）
 - データの散らばりをできるだけ保存する低次元空間へ写像
 - データの可視化に有効
- データの標準化
 - すべての次元を平均 0、分散 1 にそろえる
 - 各次元に対して平均値を引き、標準偏差で割る

2.1.2 前処理

• 主成分分析の考え方

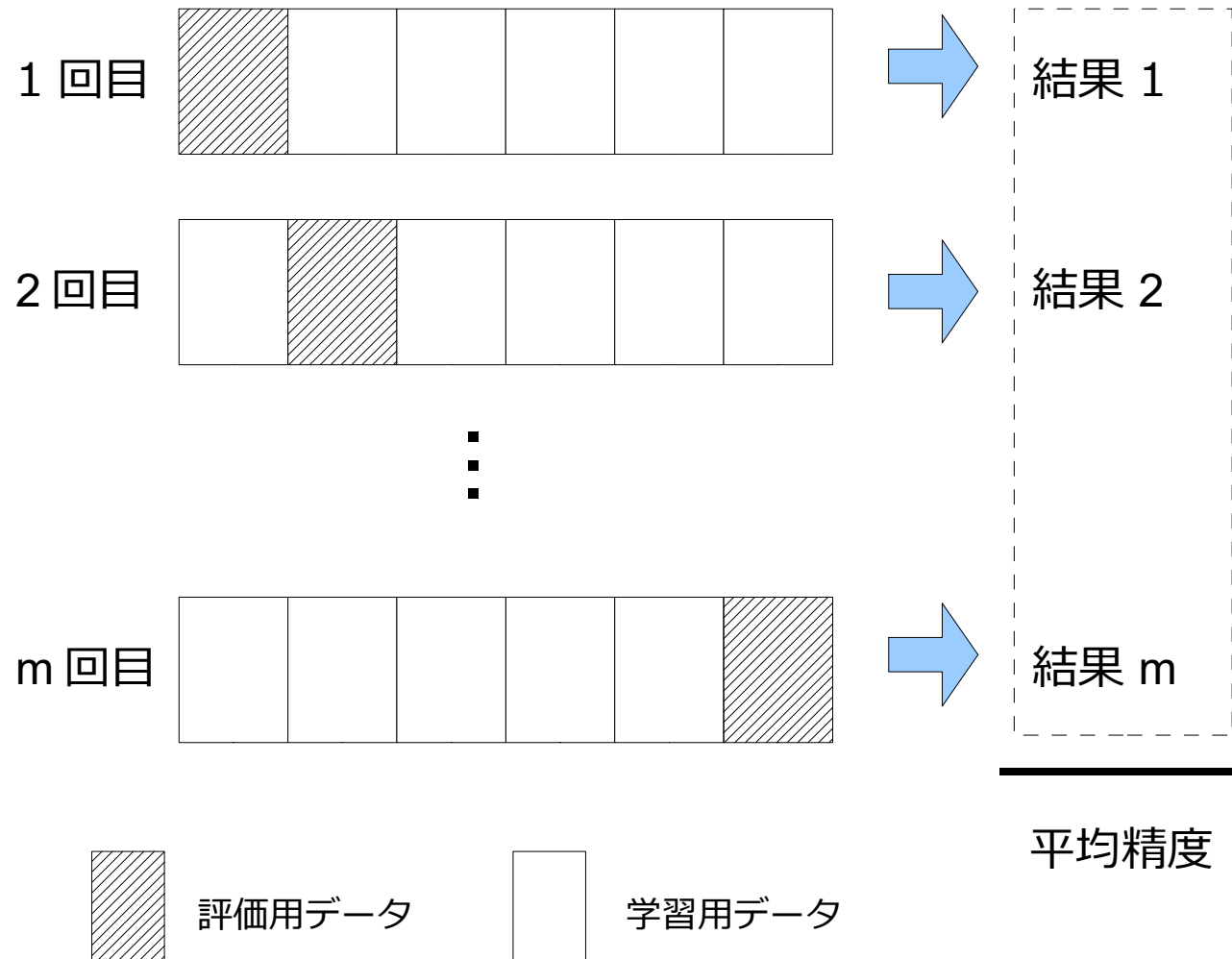


2.1.3 評価基準の設定

- 分割学習法
 - データの半分を学習用、残りの半分を評価用とする
 - ハイパーパラメータを調整する場合は、学習用・検証用・評価用に分ける
- 交差確認法
 - データを m 個の集合に分割し、 $m-1$ 個の集合で学習、残りの 1 個の集合で評価を行う
 - 評価する集合を入れ替え、合計 m 回評価を行う
 - 分割数をデータ数とする場合を一つ抜き法とよぶ

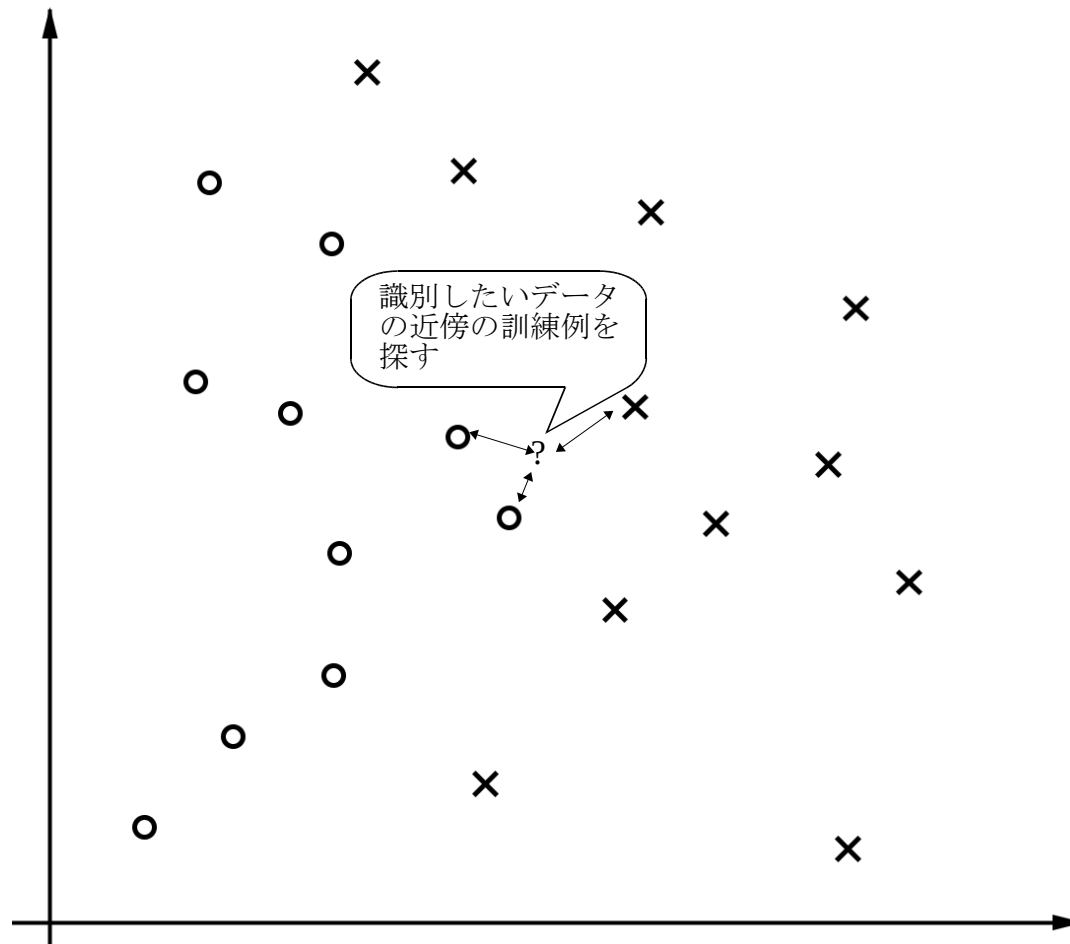
2.1.3 評価基準の設定

- 交差確認法



2.1.4 学習 k-NN 法

- 識別したいデータの近傍の k 個の学習データを探し、属するクラスの多数決で識別



2.1.5 結果の可視化

- 混同行列

	予測+	予測-
正解+	true positive(TP)	false negative(FN)
正解-	falsepositive(FP)	true negative(TN)

- 正解率 $Accuracy = \frac{TP + TN}{TP + FN + FP + TN}$

- 精度 $Precision = \frac{TP}{TP + FP}$

- 再現率 $Recall = \frac{TP}{TP + FN}$

- F 値 $F-measure = 2 \times \frac{Precision \times Recall}{Precision + Recall}$

正解の割合
クラスの出現率に
偏りがある場合は不適

正例の判定が
正しい割合

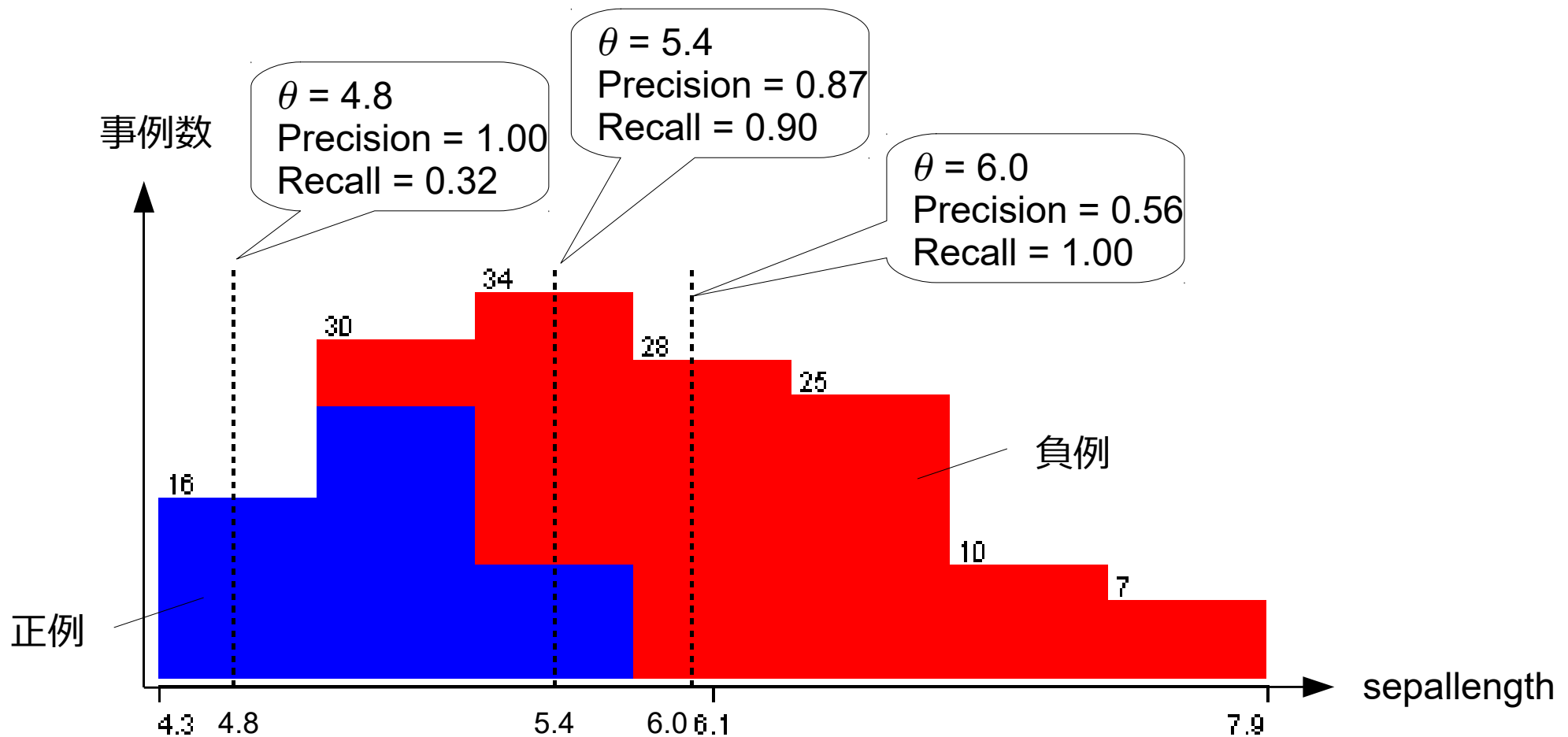
正しく判定された
正例の割合

トレードオフ

精度と再現率の
調和平均

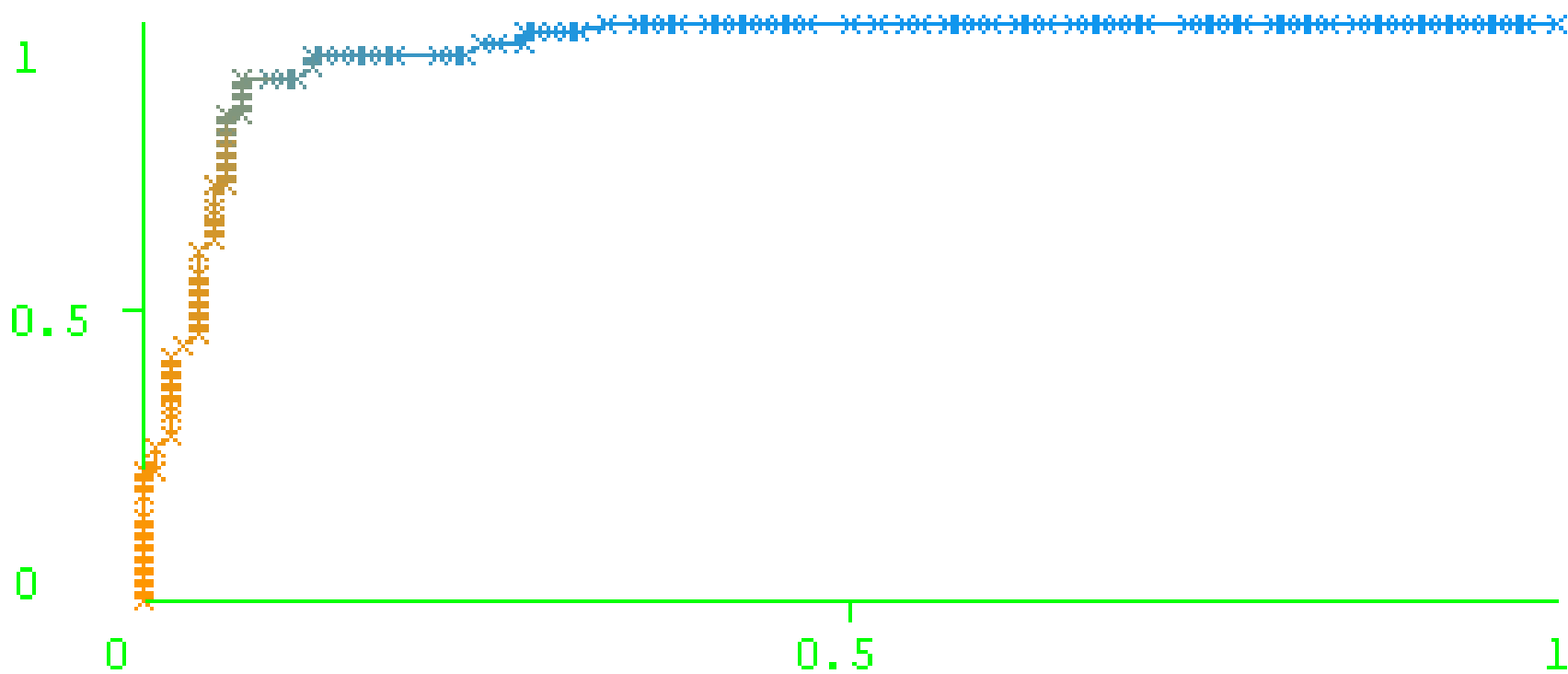
2.1.5 結果の可視化

- 識別のための閾値の設定
 - sepallength 特徴による Iris-setosa の識別



2.1.5 結果の可視化

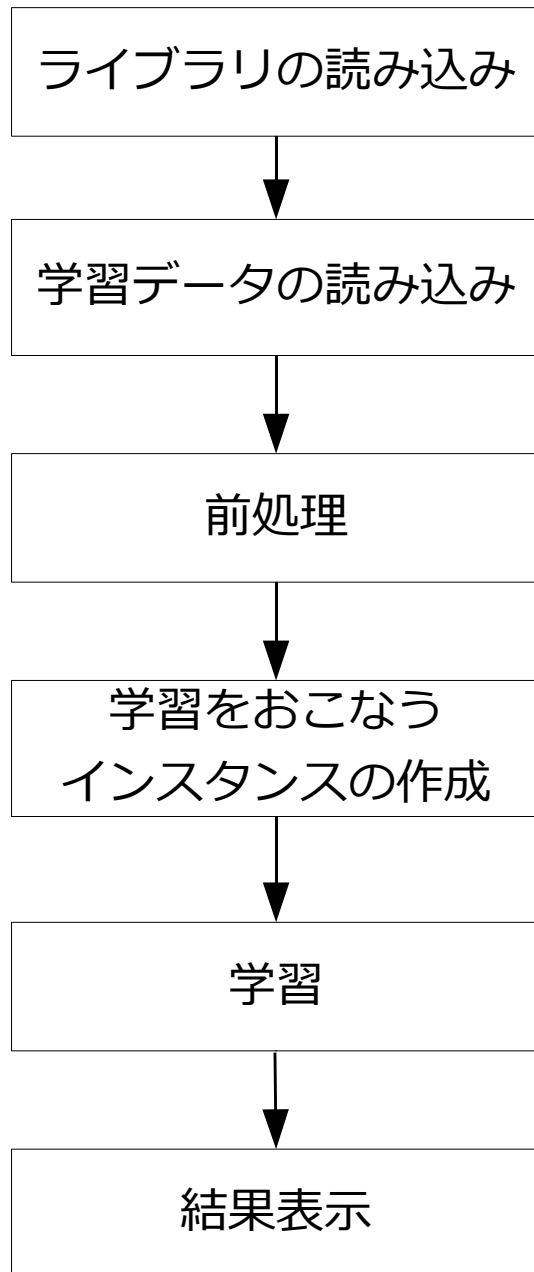
- 精度と再現率のトレードオフ
 - ROC 曲線



2.2 Python による機械学習

- Python を使うメリット
 - データ処理や機械学習のパッケージが充実
 - グラフ表示などの可視化が容易
 - Jupyter Notebook で、実行手順を記録しながらコーディングが可能

2.2 Python による機械学習



- 組み込みデータは datasets パッケージを利用
- 外部データは pandas の read_csv 等を利用

- 標準化 : scale
- 主成分分析 : PCA

- 学習パラメータを与えてインスタンスを作成

- fit に学習データを与えて学習
- 分割学習法では predict で予測を得る
- 交差確認法では cross_val_score を実行

- 分割学習法では confusion_matrix で混同行列を求める
- 交差確認法では、結果から平均・標準偏差などを求める